

乳幼児の事故の実態調査について (分担研究:小児の事故とその予防に関する研究)

梅田勝* 柏木真弓美 谷越多真 松坂登代美
尾崎則子 嶋田左知代 永井邦子 森岡聖次 橋本勉**

要約：和歌山県御坊保健所管内で、乳幼児の事故の実態を把握し防止につなげるため、乳幼児の事故の実態調査を実施した。その結果、年齢により事故の様相は同一でないこと、さらに環境、生活様式の変化に伴い、事故の原因もずいぶん多様化していることがわかった。また、各種健診時に事故防止についての保健指導を実施する必要がある、事故防止マニュアルの作成が望まれる。

見出し語 健康診断、事故防止、保健所

〔研究目的〕：和歌山県御坊保健所（管内人口7.8万人）管内で、乳幼児の事故の実態を把握し防止につなげるため、保護者に面接により、アンケート調査を実施した。

〔対象と方法〕：対象：管内に居住する6ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児とした。

調査時期：平成元年12月1日～平成2年2月28日
調査方法：乳幼児健診（6ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児）前にアンケート用紙を配布または郵送し健診当日保健婦が聞き取り調査を行ない回収した。対象者551人、調査総数504人

（男257人、女247人）、回収率91.5%（表1）

〔結果〕：1)事故の有無の状況

健診別に事故の有無を見てみると事故があるもしくはヒヤッとした経験があると答えたものは、6ヶ月児では157人中29人（18.5%）、1歳6ヶ月児では151人中98人（64.9%）、3歳児では196人中143人（73.0%）みられた。これらのことより年齢が高くなるにつれ事故を起こしたことがある子供が増えていることが確認された。

（ $P<0.001$ ）（表2）

2)事故種類別状況

事故体験を事故種類別にみると、多いのは外傷で504人中171人（31.5%）みられた。いちばん少ないのは窒息で、13人（2.6%）であった。（表3）

3)健診別事故種類別状況

6ヶ月児健診ですでに外傷が13人（8.3%）、窒息5人（3.2%）みられた。1歳6ヶ月健診では外傷が55人（36.7%）、中毒28人（18.6%）みられた。3歳児健診では外傷が103人（52.5%）と、2人に1人が経験していた。（表4）

4)事故種類別、年齢別状況

事故の発生を件数でみると、調査総数504人中、延べ500件みられた。年齢別状況でみると、12～17ヶ月の間に事故体験が最も多く、特に外傷と溺水がピークを示している。異物、中毒は1歳未満に多い。事故を起こしたことがあるがいつごろか記憶にないと答えたのが、50件（10.0%）みられた。うち半数は外傷であった。（表5・図1）

5)事故種類別、出生順位別状況

事故を起こしたときの出生順位をみると、

* 和歌山県保健環境部 (Public Health and Environment Dept. of Wakayama Prefecture)

** 和歌山県御坊保健所 (Gobou Public Health Center of Wakayama Prefecture)

末子 249件 (49.8%)、1人っこ 174件 (34.8%)、長子51件 (10.2%)の順であった。(表6)

6)事故種類別原因状況

事故種類別に原因をみても、中毒では63件中32件 (50.8%)がタバコが原因であった。火傷ではポット50件 (47.1%)と半数近くを占め、部位別にみると、手が76件 (71.7%)であった。また、カップラーメン(味噌汁)による火傷が6件(5.7%)みられた。この場合の部位は、足であった。外傷では 232件中 126件 (54.3%)が、転落・転倒(階段からを含む)によるものであり、部位別にみると顔面・頭部をあわせると、134件 (57.8%)であった。異物では31件中8件 (25.8%)が紙類(新聞紙、ティッシュペーパー等)であった。(表7・表8)

7)事故発見者の状況

事故の発見者については、母親が 336件 (67.2%)、祖父母65件 (13.0%)、父43件(8.6%)であり、家族(保育者)が発見者である場合が 96.4%であった。(表9)

8)事故別の保育者の状況

家事 228件 (45.6%)がいちばん多かった。そ

の他は 116件 (23.2%)でその中には子供と一緒にと答えたものが多かった。特に外傷については、その他 228件(38.8%)の中のほとんどが、「子どもと一緒に遊んでいてケガをした」と答えたものが多かった。溺水については 86.3%が「保護者が子どもと一緒に入浴中に起こった」と答えている。(表10)

〔まとめ〕：今回事故に関する面接調査を実施して、年齢により事故の様相は同一でないこと、さらに環境、生活様式の変化に伴い、事故の原因もずいぶんと多様化していることがわかった。事故を起こしたことがある、ヒヤッとしたことがあるというような事故についてのとらえ方は、保護者により異なっていることがわかった。ヒヤッとしたことが小さい事故としてとらえられ、本当にヒヤッとしたことがでていないのではないかと考えられ、今後この調査を深めることが課題である。これらのことより、各種健診時に事故防止についての保健指導を実施する必要がある、そのために、我々保健医療従事者が事故の定義づけをし、事故防止マニュアルの作成が必要である。

表1. 市町村別アンケート回収者の内訳

区分	総数	男	女	6か月児健診			1歳6か月児健診			3歳児健診		
				総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	504(100.0)	257	247	157	78	79	151	76	75	196	103	93
御坊市	201 (39.9)	91	110	69	34	35	46	14	32	86	43	43
美浜町	58 (11.5)	27	31	24	12	12	19	8	11	15	7	8
日高町	58 (11.5)	32	26	10	4	6	22	14	8	26	14	12
由良町	43 (8.5)	26	17	14	7	7	16	11	5	13	8	5
川辺町	30 (6.0)	18	12	9	5	4	21	13	8	0	0	0
中津村	13 (2.6)	8	5	3	3	0	3	3	0	7	2	5
美山村	0 (0.0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
印南町	101 (20.0)	55	46	28	13	15	24	13	11	49	29	20

表2. 事故の有無の状況(人数・%)

区分	総数	ある・ヒヤッとした	なし
総数	504(100.0)	270(53.6)	234(46.4)
6か月児	157(100.0)	29(18.5)	128(81.5)
1才6か月児	151(100.0)	98(64.9)	53(35.1)
3才児	196(100.0)	143(73.0)	53(27.0)

表3. 事故種類別状況(人数・%)

区分	総数	ある・ヒヤッと	なし
中毒	504(100.0)	55(11.0)	449(89.0)
火傷	504(100.0)	93(18.5)	411(81.5)
窒息	504(100.0)	13(2.6)	491(97.4)
溺水	504(100.0)	41(8.2)	463(91.8)
外傷	504(100.0)	171(31.5)	333(68.5)
異物	504(100.0)	26(5.2)	478(94.8)

表4. 健診別事故種類別状況(人数)

区分	6か月児健診		1歳6か月児健診		3歳児健診	
	ある・ヒヤッと	ない	ある・ヒヤッと	ない	ある・ヒヤッと	ない
中毒	5	152	28	123	22	174
火傷	8	149	32	119	53	143
窒息	5	152	5	146	3	193
溺水	0	157	20	131	21	175
外傷	13	144	55	96	103	93
異物	4	153	11	140	11	185

表5. 原因,年齢別状況

区分	総数	0-5M	6-11M	2-17M	18-23M	24-29M	30-35M	36M-	不明
総数	500(100.0)	29(5.8)	78(15.6)	137(27.4)	72(14.4)	51(10.2)	60(12.0)	23(4.6)	50(10.0)
中毒	63(100.0)	4(6.3)	27(42.9)	20(31.7)	2(3.2)	1(1.6)	1(1.6)	0(0.0)	8(12.7)
火傷	106(100.0)	5(4.7)	16(15.1)	23(21.7)	21(19.8)	13(12.3)	13(12.3)	6(5.7)	9(8.4)
窒息	17(100.0)	6(35.3)	5(29.4)	4(23.5)	1(5.9)	0(0.0)	0(0.0)	1(5.9)	0(0.0)
溺水	51(100.0)	1(2.0)	2(3.9)	25(49.0)	10(19.6)	5(9.8)	2(3.9)	3(5.9)	3(5.9)
外傷	232(100.0)	9(3.9)	20(8.9)	63(27.2)	35(15.1)	30(12.9)	40(17.2)	11(4.7)	24(10.4)
異物	31(100.0)	4(12.9)	8(25.8)	2(6.4)	3(9.7)	2(6.5)	4(12.9)	2(6.5)	6(19.4)

図1. 事故種類、年齢別状況

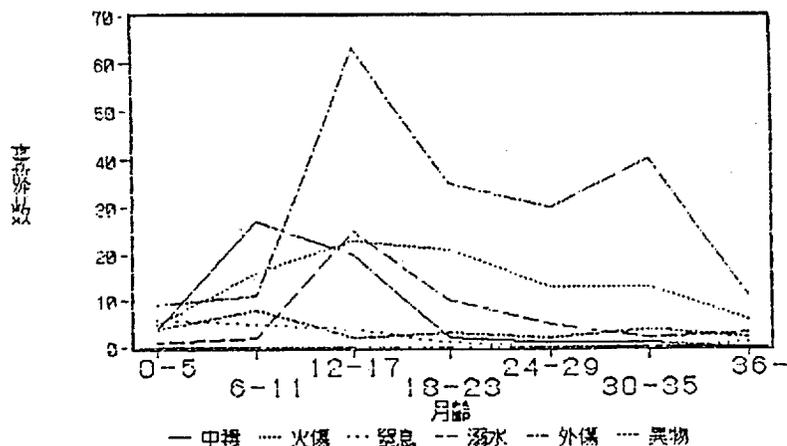


表6. 事故種類別出生順位状況 (件数・%)

区分	総数	1人っ子	長子	末子	その他	不明
総数	500(100.0)	174(34.8)	51(10.2)	249(49.8)	14(2.8)	12(2.4)
中 毒	63(100.0)	32(50.8)	3(4.8)	26(42.3)	2(3.1)	0(0.0)
火 傷	106(100.0)	30(28.3)	14(13.2)	54(50.9)	5(4.7)	3(2.9)
窒 息	17(100.0)	5(29.4)	1(5.9)	10(58.8)	0(0.0)	1(5.9)
溺 水	51(100.0)	8(15.7)	5(9.8)	37(72.5)	1(2.0)	0(0.0)
外 傷	232(100.0)	91(39.2)	24(10.3)	106(45.7)	6(2.6)	5(2.2)
異 物	31(100.0)	8(25.8)	4(12.9)	16(51.6)	0(0.0)	3(9.7)

表7. 火傷の原因、部位別状況

区分	総数	手	足	顔	その他	不明
総数	106(100.0)	76(71.7)	15(14.2)	8(7.5)	6(5.7)	1(0.9)
やかん	6(5.7)	6	0	0	0	0
アイロン	9(8.5)	4	4	1	0	0
ストーブ	15(14.1)	14	1	0	0	0
風呂の湯	9(8.5)	6	1	0	2	0
ポット	50(47.1)	39	3	6	2	0
カップラーメン	6(5.7)	1	4	0	0	1
その他	9(8.5)	6	1	1	1	0
不明	2(1.9)	0	1	0	1	0

表8. 外傷の原因、部位別状況

区分	総数	手	足	顔	頭	その他	不明
総数	232(100.0)	50(21.6)	32(13.8)	48(20.7)	86(37.1)	11(4.7)	5(2.1)
自動車	7(3.0)	3	0	2	0	2	0
自転車	3(1.3)	1	2	0	0	0	0
三輪車	5(2.2)	2	0	0	1	2	0
転落・転倒	126(54.3)	4	19	36	55	7	0
おもちゃ	15(6.5)	3	3	3	6	0	0
刃物	12(5.2)	11	0	0	1	0	0
ガラス	9(3.9)	2	1	5	1	0	0
家具	16(6.9)	2	1	1	12	0	0
その他	37(15.9)	21	5	1	10	0	0
不明	2(0.7)	1	1	0	0	0	0

表9. 発見者の状況

区分	総数	父	母	同居	祖父母	近親の人	近隣の隣	父母	警察	その他	不明
総数	500	43	336	15	65	4	2	18	5	8	4
(%)	(100.0)	(8.6)	(67.2)	(3.0)	(13.0)	(0.8)	(0.4)	(3.6)	(1.0)	(1.6)	(0.8)

表10. 事故別保育者の状況

区分	総数	家事	就労	休憩	雑談	睡眠	入浴中	食事中	その他	不明
総数	500(100.0)	228(45.6)	17(3.4)	37(7.4)	25(5.0)	8(1.6)	50(10.0)	12(2.4)	116(23.2)	7(1.4)
中毒	63(100.0)	43(68.2)	1(1.6)	11(17.5)	1(1.6)	0(0.0)	0(0.0)	1(1.6)	6(9.5)	0(0.0)
火傷	106(100.0)	57(53.8)	3(2.8)	11(10.4)	8(7.5)	1(0.9)	3(2.8)	7(6.6)	14(13.2)	2(18.9)
窒息	17(100.0)	8(47.0)	0(0.0)	1(5.9)	2(11.8)	3(17.6)	0(0.0)	2(11.8)	1(5.8)	0(0.0)
溺水	51(100.0)	4(7.8)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	41(86.3)	0(0.0)	3(5.9)	0(0.0)
外傷	232(100.0)	95(40.9)	12(5.2)	11(4.7)	12(5.2)	4(1.7)	2(0.9)	2(0.9)	90(38.8)	4(1.7)
異物	31(100.0)	21(67.7)	1(3.2)	3(9.7)	2(6.5)	0(0.0)	1(3.2)	0(0.0)	2(6.5)	1(3.2)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:和歌山県御坊保健所管内で、乳幼児の事故の実態を把握し防止につなげるため、乳幼児の事故の実態調査を実施した。その結果、年齢により事故の様相は同一でないこと、さらに環境、生活様式の変化に伴い、事故の原因もずいぶん多様化していることがわかった。また、各種健診時に事故防止についての保健指導を実施する必要がある、事故防止マニュアルの作成が望まれる。